



2022年  
共助会講演会

## 支援も必要とする児童生徒の理解と対応



8月24日、共助会講演会。コロナ対策として座席を工夫するなど、実行委員の皆さんが準備万端整えて開催された。

今回は鹿児島大学大学院准教授の中村真樹先生の表題のテーマでの講演で、副題は「子どもの心に寄り添って」だった。参加者は百名ぐらいで、その内くろつち数名だっただろうか。

先生のご専門は「臨床心理学」で、先生のお話だと、発達障害を抱えた、主に保育園児から小学校低学年の多くの子を対象に研究をしてこられたそうだ。

自分らが教師なりたての頃の、

勉強ができる子・できない子という2分法は過去の論理で、発達障害の捉え方は世紀をまたいで研究がだいぶん進んだようだ。

支援が必要な子は年々増加傾向らしい。奥底に貧困問題・児童虐待の問題などもあるだろうが、以前は教師の認識不足からの見過ごし事例が多かったかも知れない。あの子にはこう接すればもっとよかったかなあ、など思い起こしながら聞いていた。実行委員の皆さん、ご苦労様。



## くろつち会GG大会

くろつち会グラウンドゴルフ大会は、今年で21回目になるんですね。今年も感染防止対策に気を配りながら実施の予定です。

日時 **10月2日(日)**

予備日10月9日(日)

受付 8:30 開会9:00

場所 **かのやGG場 Dコース**

TEL 0994-42-3222

参加料 300円

賞 順位賞5位まで BB賞

ホールインワン賞 全員に賞

参加申込 **〆切9月26日(月)**

TEL (Fax) 0994-40-2375(矢野)

携帯090-5736-6677

詳しくは 案内チラシを

## ぶつさ言う人 16

### ■「文部省残酷物語」

妻の実家<sup>まがや</sup>で荷物を整理したら古本が出てきたという。その書名が衝撃的だ。今から44年前、1978年Yell Books出版の本だ。

日教組は1947年に結成されているが、文部省が日教組をいかに潰そうと目論んできたかの戦後30年史と言ってもいい本だ。パラパラ捲って目を通していると、中教審路線反対闘争や



主任制闘争などなどの文言が散見され、不愉快な気分になってきた。

しかしその書き出し「霞が関で最もカビ臭い官庁、発展途上国、そして“御殿女中”などと揶揄される文部省。経済官庁と違って覇気がない」を見て幾分かホッとする自分がいた。

「御殿女中」というのは差別用語にもなり、本来の意味から転じて「陰険な策謀をめぐるして人を陥れようとする女。底意地の悪い女」(日本国語大辞典)の意味で使われるらしい。

この「～残酷物語」には、陰険な策謀の数々が載っている。

陰険な策謀を、とい

う点は、省庁のトップ官邸がそうだから文科省だけじゃなく、どの省庁もそうだろうな。

### ■闘病記⑥鼠舞の祟り

昔の薩摩の金言「泣こかい跳ぼかい～」で、「泣こよかひっ跳べ」の前の姿が「鼠舞(ねず[み]まい)」だ。鼠が穴から出ようとしては引っ込み引っ込みしていて、なかなか決断がつかない哀れな姿だ。「首鼠両端」又は単に「首鼠」とも言う。

年々鼠舞することが多くなったなあと感じるのは僕だけだろうか。

十数年来の悩みが数年前の痔の手術で解消したかと思っていたが、どうも調子がおかしい。

病院に行かなきゃ解消しないのは分かるが部位が部位だ、内なる口実を無理に見つけて踏み切ろうとしない。

さてどうしようかと迷った末に、意を決して漸く病院に行った。

薬を処方してもらっただけのつもりが大腸検査をする羽目に陥り、次の週、ごりごり大腸に管を差し込まれた。痛くはないのだが快適な訳がない。

結果、ポリープが見つかり切除の必要があるという。次は内なる口実がない限り、切除だ。

あ～あ、鼠舞したこと天罰だ。(植園)



## 野草折々-55-

飯山春男さん紹介の身近な植物シリーズ

### ヤナギバスズムシバナ (キツネノマゴ科)

1970年代に帰化したメキシコ原産の外来植物。繁殖力が強く今ではどこにでも見られます。コンクリートの隙間にまで生えています。

花は朝咲き、夕方になるとめしべだけを残して散ります。

写真 2022年8月27日飯山春男宅駐車場

# 広島・長崎原爆犠牲者祈念集会

1頁からの続き

松下徳二代表  
(1頁からの続き)

鹿屋航空隊から高射砲でねらうけど、全く届いていないんです。



私は広島・長崎への原爆は全く必要のないものだったという思いと、怒りは消すことができません。

50年前に市民の会の立ち上げに尽力された上山陸三・四朗兄弟も参加されました。

米永敦子さん



私たちの幸せを追求するには何が一番いいのかというと、やはり戦争のない核のない、平和な世の中が一番いいはずです。

ところが今の日本は中国に対して挑発行為が後を絶ちません。日本はなかなかアメリカの枠組みから脱出できない、いくじなしの日本政府です。

無人機配備について米軍の人数や何をしているのか、どこのホテルに泊まっているか九州防衛局に問い合わせると、鹿屋の現地相談窓口で電話をするように言われたので電話すると、それは答えられない、という返事です。何のための相談窓口なのか。



土橋哲人さん

日米合同委員会は日本の事務次官と米軍関係者から成り立っているが、会は秘密、ということが話し合われたかも秘密。決定事項だけが明らかになるという。そんな状態で、国民はほったらかしですよ。

そして過去には、鹿屋基地は米軍の訓練には向かない、というのを、日本でいえば会計監査委員会みたいなところが発表しました。それなのに、何を言っているんだと思う。

他に、新婦人の会の境田さんなどが現状への怒りを訴えました。



吉留又雄さん

吉留さんは2014年4月17日号週刊金曜日「さらば、独裁者」を手にして話しました。



12年前の週刊金曜日です。この表紙は安倍です。「さらば独裁者」となっています。このころから「安倍は降ろさないといけない」という声が多かったわけです。

以前作ったハンカチが出てきました。これを皆さんに配りますが、汗を拭くなり弁当を包むなりすれば、一日一回は憲法九条を目にすることになります。



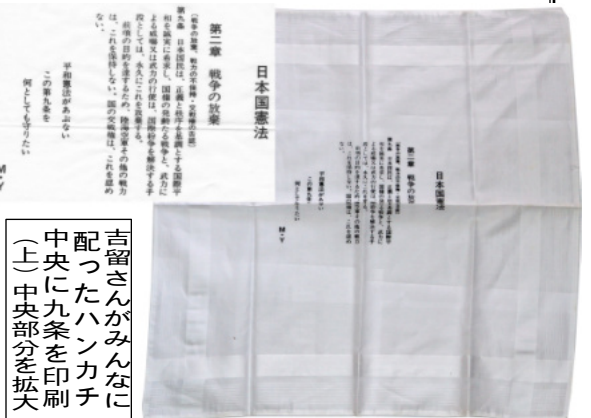
上山陸三さん



私、今年で91歳になります。今から50年前の1982年に大隅市民の会を立ち上げ、それから約30年間、私が代表を務め、その後を松下さんと本地さんが引き継いで下さいました。

今、心配なことは鹿屋市に米軍の無人飛行機をもってきたことです。

鹿屋市長も県知事も、どうしてこんな危険な物を許可したんでしょうか。これは非常に危険なことです。



吉留さんがみんなに配ったハンカチ(中央に九条を印刷した部分拡大)

そろそろ11時だ。長崎原爆投下の11時2分にサイレンが鳴り響き、それに合わせて全員で黙祷を捧げました。(現職はこの集会に参加できなくても我不関焉ではなく、せめて各々の学校現場で黙祷を捧げたことだろうと思う。)



投下時刻の11時2分 全員で黙祷

# 8月9日原爆投下 消えない怒り

77年前、長崎を原爆が襲った日を忘れまいと先輩から受け継いでいる祈念集会、抗議集会を3年ぶりに持つことができました。コロナ禍にもかかわらず、30数名の参加者。創始者の上山陸三さん（91歳）からも力強い挨拶をいただきました。

「なぜアメリカは既に瀕死の状態にあり、敗戦がはっきりしていた日本に2回も原爆で攻撃したのか」、「なぜ日本は闘いの劣勢を認めず闘い続け国民を死に追いやったのか」。

米軍は沖縄では4人に一人、20万人近い人々を殺し、日本軍を壊滅させ、東京では3月10日の夜の空爆で死傷者10万人以上、罹災者は100万人を超え、という残虐ともいえるべき攻撃、その後も日本の主要都市への攻撃を続け、鹿児島市も特に6月17日の空爆では死者2316人、負傷者3500人と徹底的に日本中を攻撃、殺傷し続けています。

かくしてほぼ日本全土を攻撃しつづけた、日本軍、日本人も闘い続ける意欲は多分もうほとんどなくなっていた、このことを十分知っていて、勝利後「日本をどう支配していくか」の準備も始めていた、こんな米軍がなぜこの後、原爆を2発も落としたのか。

『日本人の命より、原爆の破壊力、殺傷力を実際の現場で見たい、世界にも見せたい、そして、戦後の世界のリーダーになりたい』、米軍にこんな思いはなかつたらどうか。

『こんな思いのもと何十万人もの人間を残酷に殺傷した』、私はこんな答えしか思い浮かばないので怒りが燃え続けます。

戦後日本に上陸した米軍は広島・長崎の惨状を目にしたはずですが、人が人をこんなに多く残酷に傷つけ、亡き者にしたという事実を知ってどんな思いを持ったのでしょうか。70年80年を経てもなお原爆投下は必要

だったと言いつづける米軍やアメリカ人からのお詫びの言葉を聞いたことはありません。このことを皆さんはどうお考えでしょうか。

もちろん同時に敗北は明らかだったのにいつまでも終戦への歩みを進めなかった日本軍への怒りも消すことができません。8月9日はこんなことを思う日ともしています。

鹿屋では日本の自衛隊基地を利用して、いよいよMQ9が飛ぶことになっていますが、中国を一方的に敵視しての偵察には反対運動を続けたいと思っています。なぜなら今年の日本の中国に対する貿易収支は5年連続の莫大な額の黒字になっています。つい先日のテレビで中国の企業・工場を日本に移して業績を上げている中国の企業家が紹介されていました。もはや日本と中国との関係を断ち切ることはできない現



実があります。中国の今の政治体制は全く受け入れることはできない思いですが、交流を重ねることによって見えてくること変えてほしいことなど話合いできる日が来るのではないのでしょうか。

広島長崎を思い、アメリカとも中国とも平和的に交流しながら、闘いの準備に走る日本ではなく、どの国とも交流を深め、平和で安全な国づくりを進めてほしいと願う私たちの思いを強く明らかにするために8月9日の集会は今後も続けてほしいと思っています。

最後に日本は核兵器禁止条約に一刻も早く参加署名してほしい、この一言を加えて終わりとします。  
(文 松下徳二)

# 意見広告取り組みへのお礼

対、費用は庶民に回せの声を高めたいものです。

“くろつち”の高齢化が心配されますが、まだまだ大隅半島では革新大団体です。

安心安全、平和な世をこれからの方々に譲るべく頑張りましょう。

(文 松下徳二)

もう何年になるのでしょうか、南九州新聞に護憲平和を訴える宣言掲載の取り組みを始めてから。今年も、鹿屋における伝統、大事な反戦活動として、心配続くコロナ禍のもと、特に“くろつち”の皆様のご協力をいただいて取り組みを成功させることができました。心からお礼申し上げます。

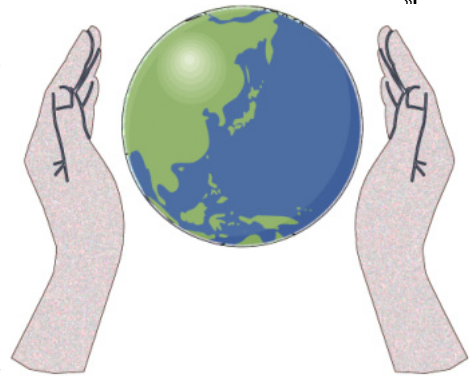
今年度も“くろつち”の皆さんのご協

力を一番の頼りにしました。ありがとうございました。(掲載誌のお届けが遅くなった皆さんには心からお詫びします)。

安倍元総理の殺生という思いもしなかった事件に続いて、統一教会の想像を絶する人間破壊はもちろん日本破壊をももたらしかねない恐ろしい活動が、ひそかに取り組まれ続けており、日本の多くの保守系政治家が取り込

まれている情けない実例が暴露され続けています。

嘘とごまかしと言論弾圧(日本の言論の自由度、何と71位。村度強要もありましたね)、そして憲法改悪。戦争志向しか見えなかったような安倍氏でしたが、国葬というバカげた取組でさらにバカげた評価をさらすことになるのではないのでしょうか。安倍国葬反



(下↓: 8月12日付け、南九州新聞の一部切り抜き)

(←左: 新聞で使われている「平和憲法」をイメージしたカット)



## 支部清掃実施 見合わせ

コロナ禍の影響です。支部清掃は、当初7月23日に計画していましたが、数日前までは計画通り実施の予定でしたが、現職が急遽今年は中止と決めたので、くろつちも急遽見合わせを決めたということです。

全体に連絡を行き届けることができずに、出てこられた方がいました。申し訳ないでした。



(3)2022年(令和4年)8月12日(金曜日) 南九州新聞 第18213号(第3種郵便物認可) 1カ月1950円

## 軍事対軍事がいちばんキケン いまこそ憲法9条の出番

ロシアのウクライナ侵略、中国の海洋進出、それに対し、米国との「核共有」や「敵基地攻撃」、「軍事費2倍化」など乱暴な議論が喧伝されています。いま大切なのは、国連憲章と憲法9条を旗印に、エスカレートする軍拡競争をやめさせ、平和外交を強力におすすめることではないでしょうか。



私たちは日本を戦争できる国に変える  
9条改憲に反対します

# くろつち便り増補版

9月号4頁校正終了後に、知らせたい内容一軍事訓練抗議行動（くろつち会が大きく関わっている活動）が生じたので、増補、という形でページを増やし、お知らせすることにしました。（喻えると膨らし粉をかけたみたいで、4頁目を4・5ページに膨らませて、6頁目にこの増補版を作成）

## 日米共同軍事訓練に抗議

8月28日から1週間、九州各地で離島防衛や台湾有事を想定しての日米軍事訓練が行われるという。日米合わせて二千人以上の隊員が参加するらしい。これにはきちんと抗議の意思を示さないとダメだ、世論の空気の流れ（大戦前の「行け行け」の流れと同類の流れ）に押し流されると益々改憲の方に傾いてしまう。



急遽、平和センターを中心に県内各地の護憲勢力に呼応して、鹿屋でも反対運動が取り組まれた。一里山交差点で、28日11時30分から12時までの30分、スタンディングアピールという急な取り組みだったにも関わらず、15名ほどが集結し、プラカードや横断幕を手に行き交う車に「軍事訓練反対」を訴えた。



自分らとは別に先着者の、車に平和をのほり（写真では左）に荷台のケースにも「戦争反対」の文字を付けて、道行く車の運転手に頭を下げています。

自分らよりどれくらい前に来られたんだろう、先着者がいて、通りかかる車に頭を下げています。（↑）声は小さくとも、抗議をつづげる事が大事だと思う。



### 金曜集会

毎月第1金曜日は金曜集会で、イベント広場前で、コロナに十分気をつけながら集会をもちます。先の2日は雨で中止になりました。しかし、**国葬問題**などどうしても市民に訴えたいので、次の金曜日（**明明後日9日17:30**）に持ちます。時間の許される方はぜひイベント広場へ。

### 共助会、今後の行事予定

- 第20回ボーリング大会 10月28日（金）  
笠之原ボーリングセンター
- 第3回 料理教室 12月18日（日）
- 第18回 グラウンドゴルフ大会  
かのやGG場 2月12日（日） 予備日19日

### 空気に流されてはダメ

軍事対軍事がいちばんケン  
いまこそ憲法9条の出番

私たちは日本を戦  
争できる国に変える  
九条改憲に  
反対します

上の軍事対軍事のタイトル、覚えていますか？今年の南九州新聞への意見広告の表題です。表題は現在の世界の「力対力」という動きを反映しています。山本七平氏は「空

気」を説明するのに、連合艦隊司令長官小沢の戦後の言葉として「（当時の**空気の流れ**で）あせざるを得なかった」をあげている。昨年亡くなった昭和史研究の第一人者、

半藤一利氏が辻井喬氏との対談の中で「（改憲論者には）哲学とか理念があるわけじゃない。……天皇陛下を『現人神』に祭り上げたのと同じ流れです。現状に飽き足りなくて、我慢できなくなって、いま、憲法改正の大きな声になっている」と述べている。

半藤氏の言う「同じ流れ」について、山本氏だと周りの「空気」が流れを作っている、と言うに違いない。氏の言外での指摘通り、空気の流れに押し流されること程危険なことではない。（山本七平「空気の研究」文春文庫）（対談集「昭和史をどう生きたか」東京書籍／下線は通園）